Cotton Up

こっとんあっぷ　Vol.152







みなさんお待ちかねのランチタイム！

毎朝、Ｔさんが厨房職員と協力して食器の

準備をしています。そのやり方とは！？

ぜひ紙面をご覧ください！

目次

・「T・D・S・N（Tanpopo Daily Support News）75
～Ｔさんの配膳活動報告～」　＜2～4 ページ＞
・ものとらっくまるちとらっく　＜5 ページ＞
・後援会のご案内・ボランティアの募集・編集後記（編集部）　＜6 ページ＞

「T・D・S・N（Tanpopo Daily Support News）７５」

～Tさんの配膳活動報告～

今回は、長年 T さんが続けてくれている取り組みについて報告します。それは、15 年前から続いている給食の配膳をする活動です。

わたげには３０人の利用者の方が毎朝通所します。厨房内で調理した給食を皆さん楽しみに仕事に励んでいます。Ｔさんは一人ずつに配膳するためのトレーに食器を並べる担当です。厨房と食堂の間にある棚に配膳をします。Ｔさんは主に、お茶碗、コップ、箸の３点をトレーに並べていきます。そして必要な方には、取り分け皿や個別に急須などを提供します。初めは限られた数の提供でしたが、現在は 30 人中１５人の方に必要な食器を提供しており、15 年前と比べて並べる種類や数が増えてきたことが１つの課題となりました。

また、これまでは活動を２段階に分けて行い、活動自体の所要時間は 20 分前後で行っていました。１段階目で全員分同じ配膳を行い、２段階目で個別の食器類に取り換えたり、加えたりする方法です。ある時から１段階目が終わると食堂入口側の壁に寄りかかり片手を振るルーティンが始まるようになりました。このルーティンは自身で区切る事はなく、職員から次に進んで欲しいという声掛けが必要な状況でした。

これら２点の課題が見えたことで、活動の内容を見直し、整理して取り組むことにしました。

≪見直しのポイント≫

・個別の食器類を必要とする人が増え、食器の位置や種類を示すためのカードが増えたため、より分かりやすく整理する。

・声掛けが必要なルーティンを無くして、より自立した活動にする。

【それでは取り組みを開始していきます】

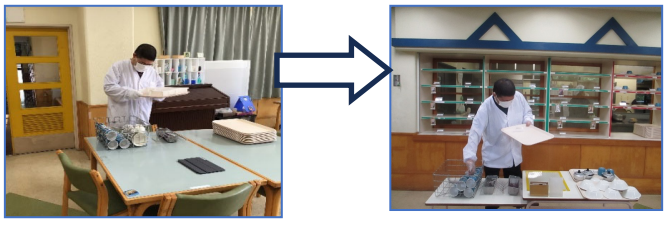
まずはＴさんの行動を観察し、現在行っている行動パターンを把握していきました。そしてご本人の負担にならないように変えていきます。

これまでの２段階に分けていた方法から、レギュラー（茶碗、コップ、箸の３点セット）の配膳とイレギュラー（３点セットに個別の食器を加える）の配膳を、区切ることなく配膳できる方法にしました。

変更の伝達は、ご本人が得意とする写真とイラストでお伝えをしました。長年行ってきた活動の見直しだった為、変更を受け入れることが難しいと推測し、活動自体を大幅に変更しました。

≪変更箇所≫

① 配膳をする時に使用する机と場所の変更



食堂の出入り口付近から、配膳をする棚の前に変更、机も段差のある形状に。

② ジグの廃止

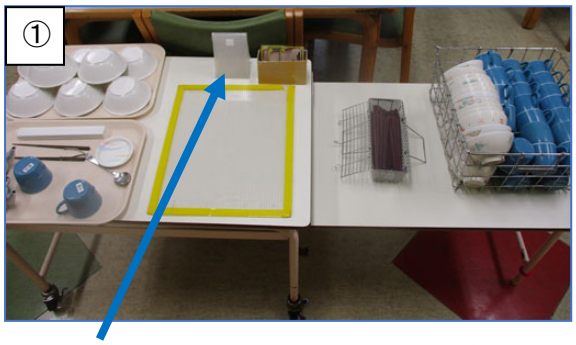


茶碗、コップ、箸の3点セットを定位置に置くことができるように、その部分だけを切り抜いたカバー（ジグ）を使っていました。配膳方法の変更に伴い、このカバーを使うことをやめました。

③ 写真カードの変更

今まではその人に必要な食器の写真を複数枚提示。変更後は、トレーに個別に必要な食器が載っている完成形を１枚だけ（写真右端が拡大したもの）棚に提示する方法にしました。





Ｔさんには写真とイラストを提示した手順書を見せて新しい手順をお伝えしました。手順書には矢印を使用し、行動が止まった時には手順書の写真を何度も確認してもらい、練習をしていきます。

テーブルには全員が使用する食器と個別の食器を用意します。中央に個別対応用の写真カードを貼るための台（スタンド）を設置し確認しながら行えるようにしました（写真①）。



はじめは、トレーが横になっている写真をカードにして提示していました。「食事をする時に持つ方向」という私の主観が入り、横向きにして撮影をしました（写真②左側）。しかし、Ｔさんがスタンドにカードを貼って確認する時に、首を横にして写真を見る様子がありました。なんで首を傾げるのか様子を観察すると、Ｔさんは食器を載せる時にトレーを縦に持つ為、写真の内容を確認する時、自分が持った方向と同じにして縦に見ていることが分かりました。再度作り直し、実際に持っているトレーの向きである縦バージョンに変更をしました（写真②右側）。すると、Ｔさんは首を傾げることなく写真を見るようになりました。

新たな取り組みを始めてから時間が大幅に増え、長い時は 50 分かかる事もありました。配膳棚には個別の配膳が無いレギュラーな方と、個別の配膳があるイレギュラーな方がランダムに設置されています。レギュラーと写真カードが付いているイレギュラーの区別がつきにくく、動きが止まってしまう事で時間が大幅に増加してしまいました。そして練習中にも職員を見て確認する行動が多く見られるようになりました。そこで、区別ができるように対策を考えました。

【レギュラーとイレギュラーの区別ができる対策と新たな配膳方法】

レギュラー

（茶碗、コップ、箸の３点セットのみの場合）



トレーを取り左手で持ったまま、テーブルに向かって右の→方向から入ります。





茶碗、コップ、箸を並べたら棚に置きます。

これらを繰り返して３０名分を配膳します。練習を重ね、目標通り２０分前後で完成することが出来る様になりました。
しかし…
活動自体は目標通りに出来る様になりましたが、**新たな課題が出現しました！**

イレギュラー

（3点セットに個別の食器を加える場合）

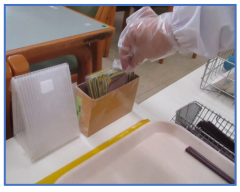


棚に貼ってあるカードを取り、左の←方向から入ります。





スタンドにカードを貼り、黄色の枠の中にトレーを一旦置きます。目の前のカードを確認しながら食器を並べていきます。カードにも黄色の枠を付け、トレーを置いた黄色の枠とマッチングできるようにしました。





棚に戻したら、カードはスタンドから外して右側のポケットに入れて片付けます。





【新たな課題は食器を正確に指定された位置に置くこと】

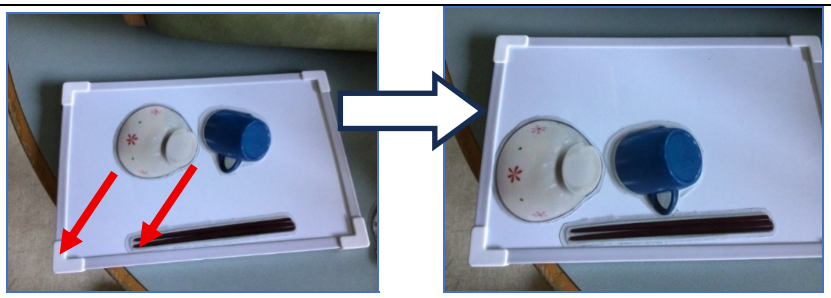
新たな課題は、並べた食器の位置がバラバラなことです（左写真）。今まではジグ（茶碗、コップ、箸３点だけをセットできるように枠組みされたカバー）を使用していた為、食器の位置が固定されていました。しかし、今回の見直しで、個別に必要な食器を一度に並べることができるようにジグの使用を廃止したところ、食器の位置がバラバラになってしまいました。これでは、次に厨房から配膳されるおかずなどの皿が置きにくくなってしまいます。



右写真のように並べて欲しい事を伝えていきます。イレギュラー対応のカードにも、右の写真と同様に端に寄せた並べ方で提示しています。

はじめは声掛け、指差し、手差しでお伝えをしましたが、本人が強く拒否する行動（体を硬直させ、静止する）があり、食器を置いて欲しい位置に移動する事が難しい様子がありました。一度置いた食器を移動することが出来ず、今まで出来ていた食器の配膳も促しが必要となり、１回の配膳時間も５０分まで延びてしまいました。一旦介入を中止し、はじめの提示通りに行っていただき、その間に本人の行動を観察することで、食器の並べ方に強い意志が見えてきました。茶碗→コップ→箸の順番で並べていきますが、はじめに取った茶碗を真ん中に置きたい強い意志があることが分かりました。はじめの茶碗を真ん中に置く事で次の食器の置く場所もずれてくることが分かり、一番はじめにセットする茶椀を左端から順番に置くように写真の内容を変更しました。

次に、一度置いた食器を動かせるように、トレーに見立てたホワイトボードで写真にマグネットを付け、食器を動かす動作を見せて、職員の意図をお伝えしました。はじめは動きが止まる行動がありましたが、トレーに着目する様子が見られ、繰り返し行うことで食器を移動することが出来るようになりました。



真ん中辺りに置いても…端にずらせば OK！と伝え続けました。

現在ではすべての配膳活動を正確に行い、目標通り 20 分以内に活動を終了することが出来るようになりました。職員が食器の変更ミスがあった時には止まって教えてくれる様にもなりました。また、配膳する食器の内容に変更があった際には、写真カードを作り直して変更をお伝えしています。写真カードを見て判断できており、職員からの声掛けではなく、自分で写真カードを頼りにして活動できていると評価しています。

今回の取り組みでは、Ｔさんの表情や身振りなどを丁寧に観察し不安の強さが感じられ、それに寄り添う姿勢の大切さを改めて感じました。言葉によるコミュニケーションより、写真やイラストやジェスチャーでのコミュニケーションが得意な方だったので口頭での支援はほとんどなく、視覚的構造化を重視し環境を整えました。今後も相手の立場に立って考え、一人一人の違いを尊重し関りを深めていこうと思います。

（二ツ森邦佳）

ものとらっくまるちとらっく　No.70

今回は支援学校の生徒さんの現場実習受け入れの流れの一例を紹介したいと思います。

先生来訪

- 支援学校の先生が来所され、書面と口頭で生徒さんに関する情報の聴き取りや実習に向けての確認を行います。
- 書面と先生から聞き取った情報を整理し、次の学校訪問での観察ポイントを職員間で話し合います。

学校訪問

- 職員が直接支援学校へ行き、生徒さんの活動の様子などの見学や担任の先生から様子を聴き取り、意見交換を行い、実習プログラムの作成に向けて、情報収集をします。
- 観察の際に事前にまとめた観察ポイントを中心に、生徒さんの強みとなる物を探り、苦手な部分を補い、実習中に自信を持って活動を行なえる環境をイメージしていきます。

ふぁず見学

- 生徒さん、ご家族、先生にふぁずへ来て頂き、実習中の活動内容の説明や家庭での様子の聴き取りを行います。
- 安心して見学や実習が行えるように、来所されて最初に生徒さんに見学の予定やふぁずのしおりをお渡しして、説明を行います。また、施設内を見学しながら、生徒さんにふぁずで行う作業の一部を体験してもらい、実習時のイメージをお伝えします。

受け入れ準備

- 先生や家族からの聴き取りと職員が実際の見た様子を基に、活動場所や作業内容を検討し、生徒さんに合ったプログラムを作成します。
- 担当職員だけでなく、職員全員で受け入れに向けて、情報共有を行い、生徒さんも他の利用者さんも安心して過ごせる環境を作っていきます。

実習開始

- 準備したプログラムを基に実習スタート。
- 生徒さんの様子に合わせて、随時内容を変更しながら支援していきます。
- 実習中は活動毎に様子を細かく記録し、すぐに行動や取り組み方について分析し、生徒さんがより自信を持って取り組める方法を考え、変更を加えていきます。

振り返り

- 生徒さん、ご家族、先生と実習の振り返りを行います。
- 振り返りの際には、写真や動画でご家族や先生に実習中の様子を詳細にお知らせするとともに、実習を通して職員だから気付けることや実習から見えた様子の変化等、実習後にも活かせそうな強みや興味関心、環境調整についての情報をお伝えしていきます。

見学スケジュール



○○さん

2025年10月9日(木)ふぁず見学スケジュール

(10:00～11:00終わりよてい)

場所	やること	チェック
食堂	しおりを見る 実習の説明	□
	【ふぁずの見学】 ・洗面台・・・□ ・ロッカー・・□ ・トイレ・・・・□ ・作業室・・・□	□
作業室	作業をする机を見る	□
	作業の種類を見る	□
	作業を体験	□
食堂	おはなし	□
	終わり	□

実習しおり



○○さん

ふぁず実習のしおり

日にち

2025年10月23日(木)～27日(水)5日間

ふぁず

実習中一日の流れ

[10:00]くるまでふぁずへくる

午前の作業

おべんとうたべる

午後の作業

[3:00]くるまでおうちにかえる

生徒さんを受け入れるにあたり心掛けていることは、慣れない場所で3～5日間過ごすので、安心して実習を行ってもらえるよう、様々な情報から生徒さん一人ひとりを理解出来るように心掛けています。これからも、実りある現場実習を提供できるよう、生徒さん一人ずつ丁寧に受け入れていきたいと思います。

たんぽぽの郷後援会のご案内

たんぽぽの郷後援会は、横須賀・三浦地区に在住の「自閉症」という障害を伴った人たちが、地域の一員として自分らしく生活していくために、必要な支援に取り組んでいる【社会福祉法人横須賀たんぽぽの郷】の活動を支援する事を目的に組織されました。

▼ 年会費	個人会員	1口	3，000円
	団体会員	1口	10，000円

たんぽぽの郷後援会にご理解、ご協力くださる方は、下記の郵便為替口座をご利用ください。

郵便為替口座番号　　００２４０－９－１７４７４

郵便為替口座加入者名　　たんぽぽの郷後援会



ボランティアさん　募集中

わたげ・ふぁず・こっとんはうすで、自閉症を伴う方々と一緒に何か活動してみませんか？
作業の検品、余暇活動の支援、清掃等
お手伝いをしていただける方がいましたら、ご連絡ください！！

〈連絡先〉

わ　た　げ　　電話:046－844－0038　（担当:いまうじ）

E－mail:　aaq40690@hkg.odn.ne.jp

ふ　ぁ　ず　　電話:046－854－5004　（担当:いしい）

E－mail:　faz2022@themis.ocn.ne.jp

こっとんはうす　電話:046－852－8355　（担当:ひがしがわ）

E－mail:　tanpoponosato-ch-rg250e@jcom.home.ne.jp



編集後記～編集部～

今回もこっとんあっぷを読んでいただきありがとうございます。

１０月に入り、やっと秋らしく過ごしやすい気候になりましたが、いかがお過ごしでしょうか。ふぁずの隣の小学校では運動会の練習を行っている様で、毎日子供たちの元気な声が聞こえてきます。

過ごしやすい気候になりましたが、朝晩は冷え込み、日中は暖かな陽気になったりと衣類の選択に迷う季節でもありますね。利用者さんも長袖にベストを着ている人もいれば、半袖短パンの人も…。その様な状況で、皆さんが過ごしやすい環境は一体なにか、常に悩みながら支援しています。空調に関してはわたげ・ふぁず共に冷暖房共に基準の設定温度があります。この基準を理解してもらえる為に、数字等視覚情報で伝える方もいれば、言葉で理由まで丁寧に伝えて納得して頂ける方、一人ひとりのコミュニケーションスキルに合わせてお伝えをすることで、皆さんに快適に過ごして頂いています。これからも皆さんが快適に活動できるように、その人に合った寄り添う支援をしていけたらと思います。

（石井）

編　集　社会福祉法人　横須賀たんぽぽの郷　〒239-0824　横須賀市西浦賀３－１３－２１
TEL:046-844-0038／FAX：046-844-0036　E－mail：aaq40690@hkg.odn.ne.jp